

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
IWAD環境福祉リハビリ専門学校	平成15年4月1日	平田 富美子	〒732-0816 広島県広島市南区比治山本町14-22 (電話) 082-254-9000																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人ひらた学園	平成25年3月22日	平田 富美子	〒732-0816 広島県広島市南区比治山本町14-22 (電話) 082-254-9000																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
農業	農業専門課程	農園芸学科	平成25年1月29日 文部科学省告示	—																		
学科の目的	人間と自然が共存していく為に「農」の技術と文化を学び、農業の発展のための経営能力を備えた人材を育成。現代の社会的ニーズと農業界の期待に応える能力を養います。																					
認定年月日	平成26年3月31日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2年	昼間	2420時間	660時間	1440時間	320時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
40人	6名	0名	4人	10人	14人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目の成績評価は、出席状況や授業態度、提出物そして各学期末に行う試験、実習の成果等の状況等を総合的に勘案して行う。																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月上旬～8月下旬 ■冬季:12月下旬～1月上旬 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	教育課程の修了は、平素の成績と学年末に試験による認定を行い、本校所定の全教育課程を修了したと認められる場合に卒業認定、進級認定とする。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席、遅刻及び早退の状況により本人及び保護者に連絡を必要に応じて面談を実施する。また、学習面で成果が現れない学生については、本人の面談の実施、放課後等の時間を使い学習支援を実施する。		課外活動	■課外活動の種類 地域の行事や行政行事へのボランティア参加を推進。 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 農業を営む企業、農事組合法人 ■就職指導内容 個別面談を数回に及び実施し、本人の意向・意思・就職希望先の確認をおこなう。求人情報の伝達。本人の就職希望先に求人依頼を行う場合もある。本人の思いに沿った就職指導の徹底。 ■卒業生数: 5 人 ■就職希望者数: 5 人 ■就職者数: 4 人 ■就職率: 80 % ■卒業生に占める就職者の割合: 80 % ■その他 ・進学者数: 0人		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業技術検定2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>農業技術検定3級</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション・インストラクター</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	農業技術検定2級	③	1	1	農業技術検定3級	③	5	2	レクリエーション・インストラクター	③	0	0
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
農業技術検定2級	③	1	1																			
農業技術検定3級	③	5	2																			
レクリエーション・インストラクター	③	0	0																			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% ■中途退学の主な理由 #REF! ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個別面談等の実施、保護者面談の実施、学習支援の実施																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 IWAD特待生制度(学業、人物とも優れ、特待生として適格であると認められる者の学費を軽減する。初年度授業料50万円免除・初年度授業料25万円免除・入学金全額減額の3種類がある。)、卒業生紹介制度(本校の卒業生の紹介による入学の場合に入学金から5万円を免除する。)、親族・親子・兄弟姉妹紹介制度(本校卒業生や在校生に親族や親子・兄弟がいれば入学金10万円を減額する。) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																					
当該学科のホームページURL	http://www.iwad.ac.jp																					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人ひらた学園IWAD環境福祉リハビリ専門学校を円滑に運営するために、各種委員会(教育課程編成委員会、入学者選抜委員会、学園保健委員会、学園衛生委員会、ガイダンス委員会)を設置する。毎年2回委員会を開催し、委員会で協議された内容は、学科長・コース長会議にて伝え、教育内容に反映させている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
平田 富美子	(学校法人ひらた学園)IWAD環境福祉リハビリ専門学校 理事長・学校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
中村 安行	(学校法人ひらた学園)IWAD環境福祉リハビリ専門学校専務理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
有田 隆則	広島県農業法人協会会長 日本野菜育苗協会会長 広島県農林振興センター評議員 (有)有田園芸農場代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
福島 偉人	(社)広島県造園建設業協会会長 日本インドアグリーン協会会長 (株)有斐園代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
篠原 一郎	NPO法人ゆうきびと理事 食と農広島県協議会幹事 広島県自治体問題研究所理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
梶原 澄子	(社福)可部大文字会老人福祉施設山まゆ常務理事・施設長 広島市老人福祉連盟副会長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
保田 和彦	医療法人あすか 介護事業部部長・生活リハビリ推進室室長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

毎年2回の開催とする。その他必要に応じて開催する場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 平成30年12月7日

第2回 平成31年2月8日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

農業技術検定だけでなく農業簿記などの就農に必要な知識と技術の成果を証する検定試験を増やしてはどうかとの意見があり、平成29年度より一部取り入れて実施している。今後は合格を目指した受験対策講座等の開講や検定試験内容を検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・農業に携わる人材養成のための実習であることの共通理解をする。
- ・可能な限り、農場などの現場で栽培することやチーム作業を行うことを経験させていただくことの承諾。
- ・農業に携わる人材を育成するための指導・助言をしていただくことの依頼。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「該ヨリノサズリノサズリ、天自徒傍元ノ天自低根言と返リし承諾言とモツ」
「該サナズ中羽明始1レ日前主ズニ必要ナ書類ヲ中羽休語生へ送付ナズ

- ・該日9時実習開始1ヶ月前までに必要な書類を実習先へ送付する。
- ・実習の目的・心構えや取組み方、連絡の取り方などを事前指導する。
- ・実習開始までに、学生は実習先へ訪問し、担当者との顔合わせ、実習目的の確認、実習形態の確認、学生への指導を行う。
- ・出席確認(欠席・遅刻・早退の場合の電話による報告連絡の徹底)
- ・実習期間中に必ず担当教員が実習先を1回以上訪問する。実習担当者からの対面による状況報告や確認、学生への指導を行う。
- ・実習施設が開催する実習反省会などに、当校実習指導教員も出席する。
- ・万が一、実習期間中に事故やトラブルなどが発生した場合は、実習担当者からの連絡を受け、当校担当教員が直ちに向い対処する。
- ・実習終了後、礼状、実習費の支払いなどを行う。
- ・実習担当者に対して「実習の手引き」で教育過程を示し、学内授業と実習内容の関連を共有する。実習の成果は、実習評価表(評価項目・評価基準・実習先からのコメント記入欄)と日々の実習記録簿を活用し、実習先と学校・学生の三者で成果を確認し、次の目標につなげていくことができるようにしている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
果樹栽培Ⅰ	果樹の植え付けから栽培・管理・収穫までの知識と技術を習得する	はつかいち莓ファーム
花卉栽培Ⅰ	花卉再選技術である繁殖・開花の調整技術や管理など実践的に学ぶ	広島市植物公園
花卉栽培Ⅱ	花卉再選技術である繁殖・開花の調整技術や管理など実践的に学ぶ	広島市植物公園
企業実習Ⅰ	農業を営んでいる農家や企業で指導を受けながら農業の実践を学ぶ	石橋農園・有田園芸農場・平田観光農園・株式会社吉井ファーム等
企業実習Ⅱ	就農意識を持ち、農業を営んでいる農家や企業で指導を受けながら就農に向けた総合的技術を心構えを習得する	石橋農園・有田園芸農場・平田観光農園・株式会社吉井ファーム等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 実習科目に関して、実習先企業等の実習担当者と本学科教員との研修会を毎年3月に実施。実習内容として企業側及び学校側からの要望事項や前年度の振り返り等の確認を行い、制度やカリキュラム上の変更事項なども含めてお互いに理解する研修の場とする。本学で開催する研修会も含め、年間を通じて、新しい情報を取り入れるためにも、自己研鑽するためにも、研修や講習会、会議等には積極的に参加するよう促し、毎年必ず開催される研修や会議への出席、研究への参加を定めている。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・年4回開催の広島県有機農業研究会での先進農家視察等の研修会に参加
 定例会に出席する。また先進農家の視察を行い、農業技術の進展を知るとともに、新しい農業技術の習得をおこなう。先進農家との関係づくりをおこない、授業や実習、就職につなげている。
 ・環境コンサルとの海藻発酵液肥の効果試験と検証の共同研修
 企業と連携し、アオサー肥効研究をおこなっている。授業内容への反映と企業実習先や就職先へつなげている。

② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・世羅町での6次産業化への指導者研修に参加
 大規模農業法人のネットワーク化を進めていくための仕組み作りを、当事者を交え協議しおこなっている。今後の農業の発展及び活性化に向けた取り組みをしている。就職先になっている。
 ・神石高原町との包括連携を踏まえた指導者研修に参加
 土壌の状態を定期的に調査し、土壌成分調査による肥料設計をおこなっている。変化する自然を把握し分析し作物の栽培に活かす知識と技術を習得し、授業と演習に活かしている。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・年4回開催の広島県有機農業研究会での先進農家視察等の研修会に参加(継続)
 定例会に出席する。また先進農家の視察を行い、農業技術の進展を知るとともに、新しい農業技術の習得をおこなう。先進農家との関係づくりをおこない、授業や実習、就職につなげている。今後も継続する。
 ・環境コンサルとの海藻発酵液肥の効果試験と検証の共同研修(継続)
 企業と連携し、アオサー肥効研究をおこなっている。授業内容への反映と企業実習先や就職先へつなげている。今後も連携し研究を進めることを計画する。

②指導力の修得・向上のための研修等

・世羅町での6次産業化への指導者研修に参加(継続)
 大規模農業法人のネットワーク化を進めていくための仕組み作りを、当事者を交え協議しおこなっている。今後の農業の発展及び活性化に向けた取り組みをしている。就職先になっている。今後も参画する。
 ・神石高原町との包括連携を踏まえた指導者研修に参加(継続)
 土壌の状態を定期的に調査し、土壌成分調査による肥料設計をおこなっている。変化する自然を把握し分析し作物の栽培に活かす知識と技術を習得し、授業と演習に活かしている。今後も定期的かつ継続的に参加する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動や学校運営状況についての評価を積極的に行い、その結果によって改善を図って、社会貢献・地域貢献できる人材を育成する。自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により関係者に対して、適切に説明責任を果たす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)②学校における職業教育の特色は何か③社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが関係業界・保護者に周知がなされているか⑤各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	①目的に沿った運営方針が策定されているか②運営方針に沿った事業計画が策定されているか③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、又、有効に機能しているか④人事、給与に関する規定等は整備されているか⑤教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか②教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか③学科等カリキュラムは体系的に編成されているか④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの作成・見直しが行われているか⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか⑥関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか⑦授業評価の実施・評価体制はあるか⑧職業教育に対する外部関係者からの評価をとりいれているか⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか⑬関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	①就職率の向上が図れているか②資格取得率の向上が図れているか③退学率の低減が図られているか④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか②学生相談に関する体制は整備されているか③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか④学生の健康管理を担う組織体制はあるか⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか⑥学生の生活環境への支援は行われているか⑦保護者と適切に連携しているか⑧卒業生への支援体制はあるか⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか②学内外の実習施設、インターシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか③防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか③学生納付金は妥当なものとなっているか

(8) 財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか③財務について会計監査が適正に行われているか④財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	①法令、専修学校設備基準等の遵守と適正な運営がなされているか②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか④自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	①留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか③留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか④学修成果が国内外で評価される取組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・幅広い年齢層が学べることが大きな特長であるが社会人に向けた告知や広報手段の強化 ・留学生受入れとして介護福祉士コースや日本語学科で展開するので国内外での国際交流や人材交流に取り組む必要 ・教職員の質や意識向上のための外部研修の導入を図る等
これらの結果を受けて定期的実施報告会をもち改善そして改革に取り組んでいく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
渡部 徳代	NPO法人日本ホルティセラピー協会 評議員	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
石田 良二	広島県農林水産局 課長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	PTA
杉野原 康子	三晃不動産株式会社 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	町内会
川村 慎二	医療法人仁康会小泉病院 総務部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
沖田 仁	社会福祉法人おりづる 理事長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	〃
西山 直樹	株式会社滴翠造園 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	〃
岡田 雄幸	社会福祉法人みどりの町大和農園 理事・施設長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	〃

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(紙面での公表)) 毎年10月末

URL:<http://www.iwad.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の情報提供を推進することで、本校の教育活動への理解と協力及び企業等との連携を促進し、企業等・行政・学生・保護者・卒業生・地域社会との信頼関係を深めていく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	理念・校訓及び教育方針/理事長及び校長名、所在地・連絡先等/学校の沿革・歴史/学校保健安全計画
(2) 各学科等の教育	募集要項/カリキュラム/進級・卒業の要件/取得資格及び実績/卒業生数、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員の組織/教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況/実習への取組状況/就職支援等への取組

(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況/課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い/奨学金・授業料免除等の経済的支援措置/
(8) 学校の財務	資金収支計算書/消費収支計算書/貸借対照表
(9) 学校評価	学校自己評価報告書及び評価結果を踏まえた改善策/学校関係者評価報告書及び評価結果を踏まえた改善策
(10) 国際連携の状況	留学生の受入れ状況
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.iwad.ac.jp>

授業科目等の概要

(農業専門課程農園芸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ワークガイド ダンスA (パソコンスキル)	データ入力から関数・グラフ・データベース機能等の操作を学び、日本情報処理検定協会主催表計算3級の合格を目指す	1後	30	2	○	△		○			○	
○			ワークガイド ダンスB (ビジネス実務)	ビジネスマナーの基礎や就職活動及び就職試験への対応を学ぶ	2前	30	2	○	△		○			○	
○			ワークガイド ダンスC (プレゼンテーション・卒業研究)	研究の遂行に必要な原理手法を学び、その過程で問題解決能力とプレゼン能力を習得する	2後	30	2	○	△		○			○	
○			ワークガイド ダンスD (基本コミュニケーションスキル)	自己覚知、円滑な人間関係の構築、社会参加を目指したコミュニケーションの基礎を学ぶ	1前	30	2	○	△		○			○	
○			ワークガイド ダンスE (応用コミュニケーションスキル)	自己覚知、円滑な人間関係の構築、社会参加を目指したコミュニケーションを応用実践的に学ぶ	1後	30	2	○	△		○			○	
○			レクリエーション活動援助法Ⅰ	レクリエーション・インストラクター資格取得に要する理論と実技を学び、現場に活かせる実践力を学ぶ	1通	60	2	△	○		○			○	
○			レクリエーション活動援助法Ⅱ	レクリエーション・インストラクター資格取得に要する理論と実技を学び、現場に活かせる実践力を学ぶ	2通	60	2	△	○		○			○	
○			社会福祉学	障害者総合支援法及び介護保険制度、その他社会福祉法制度、地域福祉の概念と社会資源に関する知識を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
○			環境学	地域環境の基礎知識から現在進行中の様々な環境問題の現状を多角的に学ぶ	1後 2前	60	4	○			○			○	
○			土壌・肥料・病害虫Ⅰ	植物が成長するにはいくつかの環境因子(土壌・肥料・病害虫)を栽培環境因子の基礎として捉え、基礎的知識を習得する	1前	30	2	○			○			○	
○			土壌・肥料・病害虫Ⅱ	植物が成長するにはいくつかの環境因子(土壌・肥料・病害虫)を栽培環境因子の基礎として捉え、基礎的知識を習得し、繁殖に必要な対応策や解決策を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	

○		自然環境再生論	自然環境保全と復元・再生の知識、関係法令等を総合的に学ぶ	1後 2後	60	4	○			○	○		
○		景観整備論	人間の生活空間の中で景観の果たす役割について学ぶ	2後	30	2	○			○	○		
○		近代農業経営論	農業簿記検定の取得を目指し、地域資源利用の手法や商品開発、地産地消の意義目的など経営に必要な知識を学ぶ	1前 2前	60	4	○			○		○	
○		有機農業実践論	自然農法の根本理念（自然栽培、有機栽培、無農薬栽培など）を学ぶ	1前 2後	60	4	○			○	○		
○		農業・農村システム概論	農業政策による地域農業の在り方や効果を学ぶ	1後	30	2	○			○		○	
○		農業マーケティング論	広島県の農家の実践的取組みの実例を考察しながら戦略的・計画的な農業や消費者視点における農業の在り方を学ぶ	1後 2後	60	4	○			○		○	
○		植物学Ⅰ	植物について幅広い知識を習得し、生物としての植物を理解する	1前	30	2	○			○	○		
○		植物学Ⅱ	植物の生理・生態の基本理論と植物の分類法を学ぶ	2前	30	2	○			○	○		
○		作物栽培Ⅰ	有機農法を基本に、一年間を通した作物の栽培・管理から収穫までの知識と技術を習得する	1通	120	4	△	○		○	△	○	
○		作物栽培Ⅱ	有機農法を基本に、一年間を通した作物の栽培・管理から収穫までの知識と技術を習得する	2通	120	4	△	○		○	△	○	
○		野菜栽培Ⅰ	有機農法による一年間を通した野菜の栽培と管理・収穫の知識と技術を習得する	1通	60	2	△	○		○	△	○	
○		野菜栽培Ⅱ	有機農法による一年間を通した野菜の栽培と管理・収穫の知識と技術を習得する	2通	60	2	△	○		○	△	○	
○		果樹栽培Ⅰ	果樹の植え付けから栽培・管理・収穫までの知識と技術を習得する	1通	60	2	△	○		○	△	○	○
○		果樹栽培Ⅱ	果樹の植え付けから栽培・管理・収穫までの知識と技術を習得する	2通	60	2	△	○		○	△	○	

○		花卉栽培Ⅰ	花卉生産技術である繁殖・開花の調整技術等実践的に学ぶ	1通	120	4	△	○		○	△	○		○
○		花卉栽培Ⅱ	多種類の花卉生産に必要な知識と技術等を実践的に学ぶ	2通	120	4	△	○		○	△	○		○
○		有機農業総合演習Ⅰ	有機農業による土作りから栽培・管理を通して有機農業に必要な総合的な知識と技術、そして品質保持のための判断力等を学ぶ	1通	120	4	△	○		○	△	○		
○		有機農業総合演習Ⅱ	有機農業による土作りから栽培・管理を通して有機農業に必要な総合的な知識と技術、そして品質保持のための判断力等を学ぶ	2通	120	4	△	○		○	△	○		
○		農産加工演習Ⅰ	基本的な農産物の加工に必要な理論や技術・方法を学ぶ	1通	60	2	○	△		○				○
○		農産加工演習Ⅱ	基本的な農産物の加工に必要な理論や技術・方法を学ぶ	2通	60	2	○	△		○				○
○		農業機械	農業機械の種類と構造及び操作方法を学ぶ	1通 2通	120	4	△	○		○	△	○		
○		就農実践演習Ⅰ	就農に必要な心構えや必要な技術を学ぶ	1通	60	2	△	○		○				○
○		就農実践演習Ⅱ	就農を想定した総合的技術を学ぶ	2通	60	2	△	○		○				○
○		企業実習Ⅰ	農業を営んでいる農家や企業で指導を受けながら農業の実践を学ぶ	1後	160	4				○		○	○	○
○		企業実習Ⅱ	就農意識を持ち、農業を営んでいる農家や企業で指導を受けながら就農に向けた総合的技術と心構えを習得する	2後	160	4				○		○	○	○
合計			36科目	2420単位時間(100単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
教育課程の定めるところにより各学年毎に修了すべき科目について出席時間数が2/3以上である者に対して試験を行い合格者に対して当該科目の単位を認定する。実習科目についてはその出席時間数が4/5以上である者に対して実習の評価により単位を認定する。全ての授業科目について単位が認定されることを卒業要件とする。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週